

が ん ば

報 友 会 育 小 三 島
行 報 部
発 報 部
廣 報 部

〔第51号〕



校内年賀はがき作りにはげむ

— 島三小児童会役員 —

少 良 産 育

教 頭 本 多 末 勝



近年「少産良育」という風潮が一般に浸透しているようであります。これは文字どおり、少なく産んで良く育てようというもので結構な考え方のようである。だが一人か二人の子どもなら果して良育が可能であろうか。

育てやすいといっても、遠い間隔で二人生んだ場合、二人とも「ひとりっ子」として育ててしまいやすい。ひとりっ子がなぜ問題なのか。ひとりっ子の場合、親の愛情過多から過保護に陥りやすく、また物質的充足の容易さなどから、無気力で利己的な人間になりやすいからである。多人数兄弟では彼らなりに譲歩や妥協の精神が培われ、家庭に一つの小社会が形成されて社会性が養われやすいなどの利点が多い。

出生率の低下による少産傾向のかけには、避妊の実行が相当に普及していることを、

十分推察することができ。厚生省の調査では、避妊・受胎調節をしている人は、六二・四％と発表されています。避妊の理由を全体で見ると母体の健康のため四五・〇％、子どもの良育のため三八・六％、生活苦のため二一・〇％などがある。生活苦のため一五・六％などが主なるものであるが、二〇才層では、生活を楽しむためが二八・九％でトップに立ち、以下母体の健康、生活苦、よい教育の順になっている。

ここで特に注目されることは、若年令層の人たちが「生活を楽しむため」に、少産の家族計画を打ちたてていることとあります。生活を楽しむことは、若い人に限らずだれしも好ましい志向ではあるが少産即良育となるためには、親としての自覚が痛感されます。

特集 親と子のつながり

一般会員の投稿より

親子

「ずんだれ」の見本

一年四組(新山)

服部 吉男

現代の子供達は一面我々が恥かしく思う程にすっかりしている。思う処を堂々と主張し、実行に移す。が反面精神的にも体力的にも非常に弱い。長所は伸ばせというが、親がそのよい面を持ち合わせぬ為、これ以上育てるには黙って見ていくより手がない。欠点は早いと直さねばならぬが、これ又益々弱くなる様に親が仕向けてはいまいか。ではお前の家はどうかと問われれば返答に窮し、赤面のほかはないが、敢えて気付いた事をあげてみたい。

「呼ばれたら大きな声で返事をしなさい」とよくいわれるが、郵便局・銀行・病院で気付いてみると、名を呼ばれてきちんと返事をした人を見つけたことが唯の一度もない。

「初めての人に用事がある時は、自分の名前をいってから相手にわかるように話さない。間違ったらごめんないを言いなさい」。

電話のベルが鳴り受話器を取ったとき「はい、〇〇です」と名乗る親がどれだけ居るだろう。又「××、んのお宅で

しょうか。〇〇ですが、△△さんはいらっしゃいますか」という人は百人中何人あるだろう。番号を間違えた時「すみません。間違えました」と謝る人は全く居ない。

「給食の時はお行儀よく」：食物を口にしたまま話をし、しかも豚の様に「クチャクチャ」音をさせ、又道路を歩きながらアイスクリームをなめジュースを飲んでいられる大人も多いもの。

「部屋を汚さない様に」：ガムの包紙をどこへ捨てようかと迷い、お母さんに渡すと、お母さんは無造作に道路へボンと投げ捨てる。自家用車で走りながら紙屑を窓から外へ。

「小さな子を可愛がりなさい」というが、買物等で外出すると、子供を車道側にして手をひく。友達と喧嘩をしたと相手方に親が怒鳴り込む。お父さんは子供の喧嘩もしたことがないようですね。

「自分でやってみなさい」：木に登っていると「危いから駄目」等と言葉と反対の態度に出る。少々の事はやってみて、身をもって痛みを経験させてみたいもの。

「うちの子は不器用で」：「ナイフは危いから」とかで鉛筆は器械で、しかも電動の品をあてがって、テストでよい成績をとったから御褒美とい

っては組立式の又は完成品の玩具を買い与える(誰の為の勉強か)。これで器用になれば不思議な話。怪我や失敗をくり返して器用にもなるうというの様に御両親共どうやうだらうか。

「近頃の子は弱くて」：広馬場から島原城へ行こうというのに、バスに乗れ、家の車でつれて行こうなどといひ、遊びに夢中になれば「疲れるから」ととめる。子供は疲れば自分でやめるし、暑ければ服を脱ぐもの。弱くしている張本人は他ならぬ親自身ではないか。夜遅くまで勉強をすれば「可愛相に」と夜食を作ってやる母親。過保護を通り越して何とやら。夜食をとって体によい訳はない。

翌朝は食欲がなく、起き抜けに登校しようとする。「何も食べないでは」と冷たい牛乳をあてがう。お母上御自身経験がないと見受ける。満腹で勉強が捗りますか。空腹で冷えた牛乳では体はどうもありませんか。

「物を大切に」というが、こう言う大人が「型が古くなった」「ガスが抜けた」と称し修理もせずにテレビを買い替え、立派な冷蔵庫を雨曝しにして居る。買物をした時の包装紙や袋をクルクルとまるめてポイ。

「先生の、いれることをよく

聞きなさい」：お父さんとお母さんの日常の話の中で、無造作に他人や先生をこきおろした言葉が子供には敏感に響くものであり、これがもとで他人処か先生不信になり遂には親をも馬鹿にしはじめはしないか。

まだまだ挙げればきりが無い。一端の評論家めいた事を並べたてたが、吾が子を駄目に仕向けているのは親自身ではなからうか。礼儀に理屈はない。親が毎日目の前でして見せねばならないもの。それをもってつけた様なものではなく、自然と現われる態度でいけば模範を示し続けてやる

ことが大切と思う。両親が互いに信じ合い、助け合う姿を日頃から見せていければ、子供にはその態度が備わって来るものと信じて疑わない。三度の中一度でよい、食事を家族揃ってとり、学校の事、遊びの事を話題にし、親の方から聞き出すように努める。風呂で背中を流し合いながら一日の事を話す。時には拳固の一つも喰わせ親が毅然たる態度を示す。これこそが「親と子のつながり」そのものではないか。



山登りの父と子

一年一組(新山)

大野 呀子

主人は山男で、休みをよく利用して山へ出掛けています。北アルプス、鳥取県の大山、阿蘇と色々な山。山へ出掛けるたびに心配しました。でも今では山好きな主人に私も子供も無視していません。もちろん子供供連も一緒に山へ行っております。先日も土曜日から長男をつれ二人でキャンプに出掛けました。私も一度は山へ行きましたが、もう二度と登りたくありません。長男も学校、やはり主人のように山男になるのではと、又今から心配しています。「そこに山があるから登るのだ」と、山男達は言っています。今に子供が大きくなり突然、「お父さんと一緒にヒマラヤでも行ってくるよ」と言い出すのは、と思っています。お父さんと山登り、そして、男同士ここで親と子のつながりが出来いつまでも仲の良い親子であればと祈っています。

親と子

一年三組(津町)

吉田 二二子

親と子のつながり、今までつきつめて考えた事がない問題です。親と子って一体何でしょう。一つの生命をこの世

に産み育てる。それは自分の分身である。輝しい生命に対する心からの慈しみ、親の心がそうならば、子供の心はどうでしょう。子供は親に対して心から寄りかかり、親はそれをしっかりと受けとめる。嬉しい時、悲しい時、辛い時、ギョッと抱きしめてくれるかも知れません。強くなれ、と叱ってくれるかも知れません。そんな時「ああ、そうだ。私には、お父さんとお母さんがいるんだ。」結局子供の帰るところは、親の暖かいふところ。親と子のつながりとは、双方の愛と信頼だと、私は思います。

母と子

一年三組(鯉子町)

南 富美代

よく、子供は、親の後姿を見て育つと聞かされたものですが、自分が母親になった今日、本当に、それが痛切に感じられます。全く、子供に教えたことも、教えなかったことも、親の歩むが如く育って行く子供の姿は、世代や環境を水の流れに注ぐように、子供心に伝わっているようです。種々多様な話題を交わしておりますが、壁の裏にも気を配り耳を傾けて子供の心境や姿をよく見かけます。日頃、見たり聞いたりできないことや、新鮮なおしゃべりをし、

家庭の環境や、親がいつも心にかけているようなことをむさぼるように話しているの、只うろたえたり、笑しくなったり、心を見せまいとする親の心も子供にはお見通しのように、子供は神の子、又天使です。何処のお子様も皆同じこと大切に大切に、見守って育てたい一念です。

親と子のつながり

一年(広馬場)

松尾那津子

親と子のつながりと、一口に言ってしまうばかんたんなようですが、一体どんなことでしょうか。最近子供供の自殺を新聞などで知りますが、自殺された子供さんと両親の間につながりがなかったのでしょうか。我家でも、私がこうだと思

おろかに見えて、最近ではちよつとだけ知らん顔してやりすごしますが、それをいいことに宿題を忘れ教科書を忘れ先生に注意されて帰って来るなり、私の顔をうかがっているしまつです。「これはこうしようね」と言う私に「お母さん、こうした方がいいね」と返事が返って来るのはいいことでしょうか。

こんな親子に

一年三組(有馬舟津)

前田 玲子

今年の養 初めて長女を入学させて頂き、今日まで娘の一挙一動に一喜一憂しまるで親子の二人三脚でもしているようにも感じるところが過ぎてきました。子供にはたまた、やさしく健康であってくだればと常に願っているはずなのに成績には敏感で、悪い点数でももたらしてくれば、くどくどしかります。わすれものは、みだしなみは、と子供の考える時間を与えない程やましく言い子供に「かみなりかあさん」と言われ、本当にさなと感情に走らず、目先の小さな事にこだわらず、じつと子供の成長をみまもってはいられないものかかと反省をしています。これからも子供の成長の過程で、親子で正面を向き合っている時も、また同じ方向をみつめていたり、ある時は反

対の方向を指さしている事もあるでしょう。でも、いつも肩だけはそつとふれ合っていたい。そんな親子でいたいと思います。

大切にしたい 小さい会話

三年四組(下川尻町)

森 秀子

夕食の支度をしている時、三年生になる息子が、いつになくはずんだ声で「今日ね、算数の時意見を発表したら、先生が『森君さえてるね』ってほめて下さったよ。」と、得意気に話しかけてきました。私は子供を見ながら、忙しさを口実に、近頃子供と一緒にいるのが気がつきました。低学年の頃は、子供の話す一つ一つに一緒に聞いて喜んで、悲しんだりしていた事をいつのまにかただ、聞き流すだけになっていたのです。親子の血のつながりは当然だけれど、本物の親と子のつながりだけ、ただ肉体的なつながりだけで、なくどんな小さい事にでも、親子と一緒に会話し、感動しあう心と心のつながりから生まれるのではなからうかと、食事の手を休め子供との会話に心はずませた一時でした。

* * * * *

親と子の つながり

三年三組 (新山) 高野 敏章

親と子のつながりは、単的にいえば両者の信頼と隠しだてのない関係にあると思う。そうする為には、親はまず子をできるだけ理解し、子も親を理解するようにお互いに努力する必要がある。ところが学校での詳細は親には解りにくい。従って、ともすれば独断の解釈をする事が多々あるし、学校の事は先生にという考えが頭の片隅にあることも否定できない。現在は情報化社会ともいわれているが、先生(学校)と親(家庭)とも情報交換が必要であり、その事が子を理解する上に誤りがないかと思う。親と子のつながりは、子供の全体を把握してこそ、確固たるものになるのではないだろうか。その前提として情報交換、意志の疎通が肝要である。

くらべる

四年四組 (緑町)

水口 孝行

人は生まれたとき、すき通るような黒い瞳に、何ものにもかえがたい宝のしずくがあふれていたのに、日と共に、年と共に、まわりの人々とくらべられて、誰にくらべてかわいいとかが、かしこいとか、えらいとか、くらべてくらべられる日々が続いていく。幼き日でも、学校でも、一刻もくらべられない時はない。そんな中で、知らず知らずの内に他人とくらべた自分を自分と思いついておごり、たかぶり、なげき悲しむ。くらべるにもくらべようのない純粋な自分だけの宝のしずくをどこに見失ったのか、これは親である我々大人にも責任があるような、大人自身が他の子供と自分の子供とくらべ、欠点だけをみつつけ、しまったげきいしすぎていのではないだろうか? 自分の子供は? だと欠点だけでなく、長所をみいだしてやる事も親の責任ではないだろうか。反省してみる事も大人のつとめではないのか?

母親の望み

四年三組 (蛭子鼻)

松尾 勝子

母と子のつながりを考えるとき私はいつも親の側の身勝手さを感じて、子供に対しては、それは子供達が母である私に色々な期待を寄っているに

違いないし、良い母を選ばれずに生れてきたらうからです。母である私の不安の種です。数年前、子供の前で夫婦ゲンカをした時、二才だった子供が四日間も食事を食べ付かぬような病状を呈したことがありました。お医者様は「風邪でしょう」と話されましたが私は二才の幼児が精神的にどんなに大きな打撃を受けたことだろうかと、親子の関係の重大さを直感致しました。

せんさいな幼児の魂の大切さを知らされました。もうその子供も小学校一年生になり少々太い少年に成長しました。将来子供への期待を、母と子のつながりから考えると、私は自分の人生観の貧弱さを、子供への期待で満足させてはならないと自戒しています。正しい愛情をお互いに持ち続けてゆく中で親と子のつながりを深めてゆき、神から委託された子供を社会に仕える人間として送りだす母の役割を信仰の中で受けとめてゆきたいと思えます。母としてのはずかしさや不安は去りませんが、願わくば私と同じように子供も神を信じる人に成長してほしい。

それだけが今の私という母の望みです。



一びきのすずむし

五年三組 (浦田下) 紙 永良子

ある日炊事をしていると、よわよわした一びきのすずむしがえさをもとめてやってきた。私は、ナスビがあったのですこし切ってすずむしの目の前にやりました。そのすずむしは、ナスビの切れはしの上のりたべはじめた。私が炊事をしてしらん顔をしているとありがとうというようにチンチロリチンチロリとよわよわした声で鳴きだしました。むし一びきでもありがとうとゆるいのに、ちかごろの子供達は何をもらっても、ちゅういさしても何ひとつ言おうとしないうちが、おおいようです。やっぱ「ありがとう」のひことがほしいですね。

宿題のふくろ作り

五年三組 (栄町) 松本ルリ子

夕食もすぎてテレビのニュースを見てみると、一番下の娘がそばにきて何か夢中になつて針をもじっているの、C・Mの合間にふりむいてみる「生地針糸等」のはいった教材袋から針を取出して糸を通すしぐさに、横から見ていてなかなか糸が通らないのか、とうとう意にさわったのか、

秋の夜に

六年二組 (崩山町) 伊東きよ子

秋も肌寒く感じられる頃、続けて二個の小荷物が届きました。中身はおおよその見当はついていません。子どもを呼びよせ荷物の店開き。長女にはミニスカートが届きました。1人やスカートが届きました。大人物ですからデザインはスマートですし、娘はちょっと大人になった感覚で上気味。私も「ああ、これでこの冬も大助かり」とよろこびました。四才の次男坊にも箱いっぱい届きました。長男のお古がまわりまわって又、うちへやってきました。でもこの次男坊は体が大きすぎて、用を足さないのが殆んど。そのうちいくつか役立つのを選び残りはうちの新しいお古をつけて次のうちへ送ります。受けと

る妹や子どもの様子が目にかびます。選んだお古もふせが必要なのもあります。終戦後育った私たちはふせしたのを着ることに、何も抵抗はありません。あて布もおしゃれ風にあてなければいけません。流行のししゅう入りGパンは商品名を確かめてかっこいいとか何とか。買って着せさえすればいいという感覚では通じないこともあります。

この子らが親となったとき自分の子のため、破れをつくらしたり、あて布をあてたりする知恵をはたらかせることができるでしょう。鉛筆とげないように針も運べないかもしれない。大きく成長した子どもの姿を見ながらもうらさびしい秋の夜です。

世界

六年四組 (有馬舟津)

川井啓久

世界は無限なり、時代の流れも無限である。

勉強で苦しんでいる人、スポーツで苦しんでいる人、いろいろな時代の流れで世の中が明るくもなれば暗くもなる。人間の生きる道は、暗闇である。考えれば考えるほど暗闇である。しかし、世の中に生まれてきた人間であれば、世の中を明るく光を求めて生きよう。

ただその光をみださんとするには、限りなく前進。光と幸福を求めていっしょうけんめい努力して光を求めよう。そこに光と幸福があらわれるのではないでしょう。親と子のつながりは、無限の世界といっしょうではないでしょう。

子どもと親と家庭

六年一組 (靈南)

江頭藤子

家庭は子どもと親を結ぶ愛の場であるといわれています。暖かい家庭で、子どもは少しずつ育てられて、いつの間にか人格が形成されていきます。日常、子ども達は手本になるべき私達の言動をよく見ています。そして、まねようとしていきます。親のちょっとした言動が子どもの行動の方向づけに大きな影響力をもっています。すなわち家庭は学校と異なる大切な教育の場だと思えます。

友だちとけんかしても学校で何か失敗をやらかしても、家に帰って親の顔をみれば、たとえそれが叱られたとしてもなぜかホッとするのです。暖い心で、またことばで迎えられる。何でも話しのできる開かれた家庭、そんな中からすくすく伸びて行く明るい子どもができると思います。そんな家庭に一步でも近づきたく、日頃の自分を反省し

心のふれあい

一年一組 (広馬場町)

八木秀子

親と子のつながりというものをとくべつに意識したこと。は今までにない。親であり、子であるという事は遠慮せずしかなかったり、又、子は親に自分があるのまに言い表わすことではないだろうか。本

当に腹がたった時には、平手打ちをくらわし、子は大声でワワワと泣く。やかましさのあまり知らん顔でほっておく、いつの間にか泣きやんで以外と素直な気持になつていく。毎日をそのように過ごしながらも、親と子は何かのつながりがあるのだから。意識しない毎日であっても、親は子をごまかしてはいけな

いし、ないがしろにしてはならないと思う。日常の親子のふれあいが、親と子のつながりの心の中につくっていくのだから。子を思う親の気持が日頃の生活ににじみでてくるならば、子どもいつしか親心をうれしく感じてきたるべし。

二つのつながり

二年三組 (白土船津)

小川富美子

共働きをしている家庭では朝夕のわずかな時間しか、子

供とのふれ合いがありません。ゆっくり宿題をみてやる事も一日の出来事を聞いてやるゆとりもなく、忙しさに、心のついでなりがちな毎日、心の中が「ごめんね」とあやまりながら、それでも、子供の顔を見、話しの端々から今日一日何があったのか少しでも知ろうとします。

でも、父親とでは少しちがうようです。何かしでかしたら弁解の暇も与えず、パチンペンかいたと又パチン、見ていかわいそうなくらいです。でも、とっくみ合ってふざけたり、魚つりだ、キャッチボールだドライブだ等々、体と体を通してのふれ合いが母親のガミガミとはちがうのでしょうか？休日には、父親の行事が気になるようです。同じつながりでも、なんだか母親は損ですね。

童心は

家族を輝らす

(父兄)

仕事に追われ気がついた時には子供の親となり、今の子供の遊びと我々の子供のころの遊びと我々がちがうのに世の変わりがあったけにとられていきます。今の遊びは金と塾がよいで、子供もたのしい日は少いかと思います。昔と比べて

給食部見学に参加して

長与町立高田小学校

五年一組 (津町)

長谷田レイ子

私達給食部は、初めての他校研修を実施しました。給食部として本当に素晴らしい活動をされていましてので報告をしたいと思います。

一、町運営委員会に参加している(給食費等の検討)
一、毎月の献立委員会に参加している(栄養士の献立に希望を出します)
一、パン工場のぬきうち試食会を申し込みます。等々

こんな話を聞きまして多くのお母さんの声や希望が学校単位の部会の談合に終らず、運営委員会等まで声が通ることは本当によいことだと思えます。教室では班作りをして花をかざり楽しい給食をめざし当番の子供は皆白い帽子、マスク、白衣をつけています。給食が終わったら全員歯みがき実施。なるほどなるほど学べるものばかりでありました。島原でも連合体を作り、活動の場としてみたらいいなあというのが結論だったようです。

「つかり乗りまわしたい。」漁師希望の中には「父親がやっているのが、おもしろそうだから」「父がそうだから」と船員・漁師の希望理由にハッキリした違いがあるようです。

○「給料が高いから」「カッコいいから」現代っ子らしい考え方ですね。

○六年生の中には「まだこの様なことは考えていない」

「こんなに早くから自分の職業はわからない」「○○の仕事はしたいが只なんとなく」等々の返答があるのは、よくわかります。子供達の夢を知りたいと思った大人の考えは一本やられた様です。

六年生と三年生の違いというものを知りたいと思いましたが、数値的には、あまり違いは出ておりません。然し内容的には、やはり三年生にまだまだ夢多い希望がほほ笑ましく感じました。調査結果を基にして意見を述べるべきかも知れませんが、それは止しにしました。此の結果をごらんになり、皆様で話し合われる参考にでもしていただき、現代の子供達の考えの一端を知っていただければ幸いです。

「どうすればお子さんをだめにする事ができるか」

熊谷長崎大学前学部長
教育講演会より

一、現在の子どもの一般的な特長

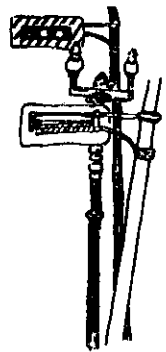
- ① 利己主義である。
- ② 自分さえよければよい。他人を信用しない。
- ③ 早熟である。
- ④ 体格はよく、言葉は色々知っている反面、遊びは知らなく、骨折しやすく、生きものとおもちゃを混同する。
- ⑤ 集団的である。
- ⑥ よいも悪いも集団的で、一人では何もできない。
- ⑦ 物を考えない。
- ⑧ 直情的で、とつぴな行動をする。テレビ・マンガの影響が強い。
- ⑨ 肉体的、精神的に息切れがする。
- ⑩ 爆発的なものにはよいが、長く続くものはだめである。仕事や勉強にもすぐあきらむ。

二、どうすれば、お子さんをだめにする事ができるか。

- ① (次の六つの実行すれば、子どもはダメになります)
 - ① 子どもの成績を非常に気にし、よかつたらほめ、悪かつたらなげき、たえず子どもに勉強せよ、勉強せよと、しつた激励をする。
 - ② (子どもはノイローゼになります。)
 - ③ 学校の授業、テストについて、いつも夫婦で議論しあひ、こんなに子どものことを心配していると、なるべく子どもに見せる。
 - ④ (子どもは、まぢがいなく自信をなくします。)
 - ⑤ 学級でよくできる子どもの名前をあげて、「○○さんがいなくて一番になれる」と、さかんにいう。
 - ⑥ (利己主義な子どもが育ちます。)

三、実態調査より

- ① どんな家庭を望むか。
 - 経済的な豊かさ 二〇%
 - 愛情の豊かさ 八〇%
- ② 理想のおとうさん
 - 仕事にとつても熱心 一三%
 - 仕事も熱心で家庭も少しはみる 三六%
 - 家庭も大切にすることが仕事もまあまあ 三九%
 - 家庭を非常に大切にす 一三%
- ③ 理想のおかあさん
 - 家庭のことに熱心 五八%
 - 家庭のことも熱心で社会にも関心がある 三七%
 - 社会のことに熱心だが家庭のこともする 二%
 - 社会のことに非常に熱心である 二%
- ④ おとうさんに望むこと
 - 子どもを理解した上で、きびしくする 五二%
 - 子どもを理解した上で、だまって見守る 三六%

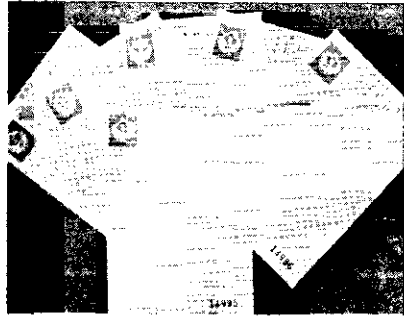


島三小校内年賀ハガキ

発行について

島三小児童会係り 小峰 教諭

はじめて、お年玉つき校内年賀はがきを児童会の手で、発行するようになりました。これは、年に一回、先生や友達に年賀はがきを出し合い感謝の気持ちをあらわすと共に、おたがいの友情を深めることをねらい、また、年賀はがきの正しい書き方を学習し、はがきの売り上げ額の一部は、歳末助け合い募金にします。年賀はがきは、最高枚数を低学年は一人十枚、中学年は



十五枚、高学年は二十枚とし、五枚一組十五円とします。一枚三円になります。紙代一円、印刷諸雑費と賞品代一円、歳末助け合い募金一円と考えています。

ポストは、校内に町内別特設ポストを二十八もつけ、その中に、二十三日までに入れるようにしています。配達は、二十四日に町内の部長、副部長により整理し、郵便袋に入れ、封し、町内別に部長さんが家に持ち帰り、保管し、一月一日に、部長、副部長により各家庭に配達をします。

一月一日に配達することは色々問題がありますが、会員の皆様の町内での協力、はげましをおねがいします。また、新年になり、お年玉抽選会を予定しております。

市内小学校合同音楽会を聞いて

去る十一月二十八日、市内小中学校合同音楽会が、文化会館大ホールに於て開かれ、三小からは五、六年生コーラス部と、四年生全員が参加すべしらしい演奏を聴かせてくれました。

普段着のまま舞台からあふれるばかりの子供達の元気の良い楽しい合奏は、父兄にも大好評。日頃扱いはれない楽器を手に、指揮の先生をみつめる真剣な顔。やつと高学年に足をかけたばかりの子供が、ただ歌うというだけではなく、楽器をもち、練習を重ね、全員一体となって音楽を造りあげる楽しさを知ったのです。大変な御苦労であったと思われませんが、その成果は私達に訓練という事の大切さを教えてくれました。このごろは、自分勝手に解釈した自由やら、個人主義やらをふりかざし、何事も参加すればよいとか、手間のかかる事はしたくないという風潮の中で、良い指導者を得た事は、子供達にとって本当に幸せでした。

今回の練習をきっかけに、今まで興味のなかった子が音楽が好きになった、「笛ハモニカなど見むきもしなかつた子が毎日吹いている」「思うように音が出るとますます楽しそうにやっている」、などという声も聞きます。親としては、音楽に目を向けてくれた事の喜びと共に、あのホールに於てたつような事は、そう何度もなかるうからその意味でも、良い体験であったと、思います。小学生の間一度はこんな機会を持つという事は貴重であり、これからも、三小の一つの方向づけとして、飾り気なく、全員参加という事で、続けてもらいたいと思います。(父兄)

学級部会

授業参観・懇談会出席状況表

学年	6月		7月		10月		11月	
	参観	懇談	参観	懇談	参観	懇談	参観	
1	数	34	31	34	33	29	31	
	%	77	70	77	75	66	70	
2	数	24	19	22	25	21	18	
	%	59	46	54	61	51	44	
3	数	24	20	17	23	21	18	
	%	55	45	39	52	48	41	
4	数	19	15	18	22	20	16	
	%	45	36	43	52	48	38	
5	数	21	20	14	19	18	12	
	%	54	49	34	46	44	29	
6	数	14	12	11	13	12	9	
	%	39	33	31	36	33	25	

編集後記



久方振りに一般会員の投稿をお願い致したところ、思いもかけぬ十八人の方々に熱のこもった原稿を頂戴致しました。私共としましては、原稿用紙を配布します時点で「二、三人位出して下さるか知ら?」「〇人で編集の段階であわてて原稿依頼に廻ることになるのでは?」等々部員一同心配致しておりました。寒気が一汐身にしむ初冬の夜、部員一同嬉しき一杯で此の号の編集を終りました。本当に有難う御座いました。今後共御協力の程よろしくお願い申し上げます。良いお年をお迎え下さいませ。